

会報ひまわり

創刊第5号

目次

- 1:療育知識〈ルールを作る上での注意事項〉
- 2:経過報告〈代表からのコメント〉

療育知識〈ルールを作る上での注意事項〉

前回の会報では、ルールの大切さについて記載しました。

そこで、今回は、ルールを作るために、あらかじめ知っておくと良いと思われる考え方について記載していきます。

■子どもの物差しで計る

現時点で子どもが「何ができているか」を理解していなければ、目標設定を行うことができず、その結果「指導してきたつもり」になってしまう可能性があります。

ですから、ルールを作るに当たっては

「現時点で子どもにとって可能なものなのか」

「一度に沢山の新たに教えていくルールを課していないか」

の2点について考えていくことが大切でしょう。

■保護者の方のこと

子どもに合わせた対応をとることが大切である一方、毎日子どもと関わるいじょう、どうしても不本意に変わってしまうこともあるでしょう。

しかし、それは反省し、次に活かせばよいのです。

なぜなら、子どもも大人も人間である以上、毎日「変わらないことはあり得ない」からです。

こちらの失敗を認めることができれば、子どもの失敗も認めることができるかもしれません。

経過報告〈代表からのコメント〉

当会の会報誌をご覧頂きまして誠にありがとうございます。NPO 法人ひまわりの会事務局でございます。

早速でございますが、当会の代表と副代表が参加しております、NPO 法人すくすくが設立されて約半年が経とうとしておりますが、当会 NPO 法人ひまわりの会代表から以下のコメントを頂いておりますので、その内容を記載させていただきます。

当会・NPO 法人ひまわりの会代表尾串光康から

一言で言えば、各内容のシステム作りをスタッフと一丸となって取り組んで、気がつけば半年も経っているという印象が正直なところですよ。

そして、スタッフに恵まれていることによるところが大きいかと思いますが、非常にやりがいを感じています。

私が担当していることは、個別指導計画の作成をベースとした、その周辺領域を総合したスタッフへの指導と養成が主としています。

その中でも、一定の養成とその後の臨床経験と定期的なスタッフの技能におけるフィードバックを行っていくことで、スタッフの職場における不安を極力軽減し、その結果臨床において個人が最大限に能力を発揮できるシステム作りを、現時点での大きな目標として掲げています。

現在はまさしくその過程に在るところですが、現時点で言えることは、確固たる基盤の上で、明確なシステムを構築したうえの業務と、スタッフが安心して臨床に取り組めることには因果関係があり、双方は比例して向上していくことです。

そのために、「マニュアル」や「自己技能評価表」、個別指導計画とは別の、「スタッフにおける各対象児の各場面における対応の目標と到達評価表」など、様々なシートを作成し、目標を成就するため、実践しているところです。

その内容は、今後開催していく講義(対支援者向け)の中でお見せできるかと思っております。

スタッフが安心して業務に取り組めるということは、当たり前のことかとも思いますが、その当たり前のところを更に追求していくことが、良いサービスにつながっていくと信じ、今後も活動していきたいと考えております。

最後までご覧頂きまして誠にありがとうございました。

NPO 法人すくすくの経過につきましては、引き続きこの場をお借りしてご報告させていただくこともあるかと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人ひまわりの会事務局